

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.23 2012年12月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ポリコム、ビデオ会議ソリューションの機能拡張や新製品の発表、プラットフォームからエンドポイントまで多岐に渡る

ポリコムジャパンは、ビデオ会議ソリューションの機能拡張や新製品の発表を行った。発表されたものについては11月下旬以降順次出荷開始する。(10月25日)

今回の発表内容については、「Polycom RealPresence プラットフォーム」の機能拡張に関するものから、セキュリティを強化したファイアウォール越え機能、ソフトウェア MCU ソリューション、ビデオ会議端末ユーザーインターフェイスの刷新やリモコン、iPad からの端末操作、音声技術、ビデオ会議システム端末、HD 対応カメラ、「Polycom HDX シリーズ」新ソフトウェアバージョン、PC・モバイル向けソリューションの新バージョンなどプラットフォームからエンドポイントまで多岐に渡る。

(1)「Polycom RealPresence CloudAXIS スイート(ポリコム リアルプレゼンス クラウド アクシス スイート)」:



Polycom RealPresence CloudAXIS スイート 画面イメージ (ポリコム資料)

プレゼンス機能対応の Skype やフェイスブック、GoogleTalk などソーシャルネットワークまたはビジネスアプリケーションの連絡先を利用してブラウザー経由でポリコム

のビデオ会議に参加できる機能。Polycom RealPresence プラットフォーム機能拡張のひとつ。セキュリティや相互接続性に特長がある。Polycom RealPresence プラットフォームの拡張機能という位置づけでエンタープライズ向けおよびサービスプロバイダー向けに提供する。

(2)「H.264/SVC」サポート:Polycom RealPresence プラットフォーム機能拡張のひとつ。オープンで国際標準規格に準拠した「H.264/SVC」をサポートし、H.264/AVC についてもこれまでどおりサポート。ポリコムによると、SVC を実装することで多地点接続会議において最大3倍の容量のHDビデオ会議が可能になる。

なお、UCIF(ユニファイドコミュニケーション相互運用性フォーラム)に対して無償でライセンスを提供(10月4日発表)している。また、Polycom RealPresence プラットフォーム関連で新しいソフトウェアバージョンにアップデートすることでSVCを利用できるようになっている。

(3)「Polycom RealPresence Access Director(ポリコム リアルプレゼンス アクセス ディレクター)」:Polycom RealPresence プラットフォームの拡張機能のひとつでセキュリティに関する新しいオプション。ファイアウォールの内側と外側でセキュアに双方向のビデオ会議が行える。

(4)「Polycom RealPresence Collaboration Server 800s バージョンエディション」:中規模企業から大企業に対応するソフトウェアベースのMCU(多地点接続)ソリューション。今回発表されたH.264/SVCをサポートし、相互接続性においてこれまで発売されたビデオ会議端末やこれから発売される端末についても対応する(下位互換、上位互換)。このソフトウェアMCUソリューションは、Polycom RealPresence プラットフォームのコンポーネントのひとつ。仮想化されたビデオコラボレー

ションを提供するところに特長がある。

(5)「Polycom UX」、新リモコン、「SmartPairing」技術、音声技術: ユーザエクスペリエンスの向上を目的とした新しいユーザーインターフェイスの提供と 20 以上の技術革新による新機能。(Polycom UX はユーザーエクスペリエンスを向上する技術の総称。)



新しく統一されたユーザエクスペリエンス (ポリコム資料)

ユーザーインターフェイスについては、ユーザの行動動向に基づき再設計されており、ルームタイプから、デスクトップ、そしてタブレットまでのビデオ会議端末の全てが同じ使い勝手の操作感を提供する。

一例として、通話開始前とビデオ会議中とユーザの使用状況にあわせたメニューが表示される仕組みがあり、後述の新リモコンも含め、ユーザはトレーニングなし簡単に通話の発信と制御が可能となっている。

新リモコンについては、機器操作を極限まで減らし利便性を向上。ボタンを 10 個以上少なくしシンプルなりモコンにした。誰にでも使える簡単リモコンが新リモコンの特長だ。20 以上の技術革新のなかで SmartPairing 技術については、今回新たに発表された新機能となる。SmartPairing アプリをインストールした iPad タブレットがポリコムのビデオ会議端末を自動的に検出しワイヤレス接続(ペアリング)する。これによって iPad からビデオ会議の制御(音量調節、ビデオ通話の開始・終了)が行えるとともに、指を滑らせるだけでライブビデオ通話をタブレットから大きなモニター画面へ転送したりすることも可能だ。当初は iPad のみの対応だが、今後多数の機能を提供する予定となっている。



SmartPairing 操作イメージ (ポリコム 資料)

なお、SmartPairing 操作に対応した端末は、後述の今回発表された「Polycom RealPresence Group シリーズ」と「Polycom RealPresence VisualEdge」そして「Polycom HDX 3.1 シリーズ」となる。

(6)ビデオ会議システムの新製品: ルームタイプ「Polycom RealPresence Group シリーズ(ポリコム リアルプレゼンス グループ シリーズ)」、デスクトップタイプ「Polycom RealPresence VisualEdge(ポリコム リアルプレゼンス ビジュアルエッジ)」、新カメラ「EagleEye Acoustic カメラ」を発表。

Group シリーズは、1080p60fps に対応した HD ビデオコーポレーションシステム。モデルは、「Polycom RealPresence Group300」、「Polycom RealPresence Group500」、「Polycom RealPresence Group700」。今回発表の SVC にも対応する。パンフレット(米ポリコム社発表資料)の情報によると 3 モデルの大きな違いは、内蔵多地点機能と入力インターフェイス端子数との点だ。内蔵 MCU 機能搭載機は、Group700 と Group500 (対応多地点数に違いはある)になる。また入出力については、Group700 は豊富なインターフェイスを持つ。さらに、Group300 と Group500 は、コーデック部の重量が 1kg 程度しかなくビジネスバックにもすっぽりとはいる。

合わせて発表された「EagleEye Acoustic カメラ」は、小規模な会議室に適した価格の EPTZ(電子パン/チルト/ズーム)カメラ。1080p30 対応し高性能マイク搭載している。ゴム製のヒンジによりフラットパネルディスプレイに簡単に取り付けられる。ポリコムジャパンによると、Group300 用に提供するとして

いる。



Polycom RealPresence Group300(ポリコム 資料)



Polycom RealPresence Group500(ポリコム 資料)

今回の Group シリーズの発表に際して、ポリコムジャパンは、HDX シリーズの取扱について Group シリーズと併売していくとしている。Group シリーズは、ISDN インターフェイスではなく IP のみ対応のため、ISDN を要望の場合は HDX シリーズを奨めるという。



Polycom RealPresence VisualEdge(ポリコムジャパン資料)

Polycom RealPresence VisualEdge は、役員などのデスクトップ向けの HD ビデオコラボレーションシステム。薄型 2.54cm ディスプレイ(27 インチ)を搭載し下方にある内蔵スピーカで HD ステレオ音声出力ができる。またタッチコントロ

ール(通話などの操作用)、ハンドセット付き。ビデオ会議用ディスプレイとしてだけではなく PC ディスプレイとしても使える。デスクトップのほか壁掛け使用にもできる。Group シリーズと同じく 1080p60 に対応する。

(7) Polycom HDX 3.1 シリーズ(新ソフトウェアバージョン):

Polycom HDX シリーズビデオ会議システムの新ソフトウェアバージョンの提供。

機能のひとつである「Polycom RealPresence ホワイトボード」をアップグレード。仮想ホワイトボードソフトウェアをビデオ会議システムに組み込むことで、デスクトップ PC を外付けする必要がなくなった。

タッチスクリーンを標準サポートしているため iPad のように指先でデュアルスクリーン設定や注釈の入力ができるとともに、マウスによる操作も可能で PC/Mac を操作するような容易さでコンテンツのアップロードや共有を行える。USB ドライブを直接 Polycom HDX 本体に差し込むことでデスクトップ PC が不要になる。

(8) 「Polycom RealPresence Desktop 2.0」、「Polycom RealPresence Mobile 2.0」: PC・モバイル向けソリューションの新バージョンを発表。

Polycom RealPresence Desktop 2.0 は、Windows デスクトップ PC もしくはノート PC 向けのソリューションで、Polycom RealPresence Mobile 2.0 は、スマートフォンやタブレット向けのソリューション。PC もしくはスマートフォン、タブレットからポリコムのビデオ会議に接続するためのソフトウェア。

共通した特長としては、SVC に対応のほか、コーポレートディレクトリーを使ったユーザの検索、コンテンツ共有用アプリケーションの選択、遠隔カメラ制御などが行える。

Polycom RealPresence Mobile 2.0 は、今回発表された先述の SmartPairing 技術に対応するとともに、RealPresence Access Director と併用することで厳密なセキュリティが必要な環境にも対応する。

今回の発表はポリコムにとっては、2年間にわたる研究開発の集大成となるという。今年の5月には新しいブランドロゴを採用。ハードウェアに依存しないソフトウェア戦略とコラボレーションの素晴らしさを推進していくという使命を明確に示していると同社では説明する。

同社の2011年売上は、15億ドルに達し前年成長率は23%。58四半期ポジティブキャッシュフロー。マイクロソフトやIBM、HPなどを始め世界に7000社の戦略的パートナーがある。また顧客は415,000社にのぼる。

オリックス・レンテック、アバイアの「Avaya Flare Experience」をクラウドサービスとして提供開始

オリックス・レンテック株式会社(神奈川県横浜市)は、「Avaya Flare Experience Cloud Service(アバイアフレアエクスペリエンスクラウドサービス)を12月10日より開始すると発表。(12月5日)

このAvaya Flare Experience Cloud Serviceは、日本アバイア株式会社(東京都港区)と2012年3月に締結したサービスプロバイダー契約に基づき、米アバイア社が開発したコラボレーション・ソリューション「Avaya Flare Experience」をクラウドサービスとして提供するもの。

iPadやWindowsパソコンなどのモバイル端末上で、通話・電話会議・ビデオ会議・資料共有・インスタントメッセージなど複数の機能を統合的に利用することができる。

「iPadとWindows PCとを同時に提供しているサービスとしては世界初となる。市場シェアNo.1の当社のコンタクトセンター技術を生かした音声・画像技術を活用しており、エンタープライズ向けに特化したハイスpek的なアーキテクチャーであることが特長だ。」(日本アバイア)

クラウド型で提供するため、サーバなど自社で所有・運用することなく、サービスをスピーディに導入・利用できる。サポートとしてヘルプデスク(テクニカル/保守・運用)を提供するため、情報システム部門がない企業でも使えるという。

【サービスのイメージ】ビデオ会議中に資料共有している画面



サービスイメージ(オリックス・レンテック 資料)

一方、ユーザの操作環境の面においては、会議はコンタクトリスト(プレゼンス)から相手を選択することで事前の予約をする必要がなく、数クリックの指の簡単なタッチ操作で、映像・音声・データ共有を交えた会議を開催(アドホック会議)することができる。加えて、ビジネスで利用する上での、VPN接続やパスワード8文字(英字大小+数字)、ファイアウォール二重化などセキュリティの面でも万全な対応がなされている。

「ユーザ向けのマニュアルは用意している。しかし、iPadの特長が生かされているためマニュアルが必要のないくらい操作は簡単だ。」(オリックス・レンテック)

Avaya Flare Experience Cloud Serviceの費用については、初期費用はかからないが、1ユーザあたり月額7,000円(税別)となっている。月額費用は、会議室への同時接続数ベースではなく、登録利用者(アドレス帳に表示される)の数に応じて課金される形式。ただし、1IDを割り当てられた1ユーザ自身が使用している複数のデバイスに登録しておき、交互にクラウドサービスに接続することは可能という。

その他、オプションとしてデバイスのレンタルやWiFiルータのレンタルサービスも提供する。また、サービスを試した上で導入できる2週間の無料トライアル期間を用意している。

このサービスの使い方としては、営業による訪問先での遠隔コンサルティング、保守サポート、在宅介護・医療活動への支援、学習塾や語学授業などの教育現場、社外や他部署とのプロジェクト会議などが想定されると両社は説明する。

「サービスインにあたっては、オリックス・レンテックと日本ア

バイアでは、プレマーケティングを実施しユーザ企業にヒアリングを実施した。」(オリックス・レンテック)

さて、今回のサービス開始の背景には、2010年 iPad 発売以降、タブレット端末法人向け出荷台数の急増とそれに伴うビデオ会議のパーソナル化の進展がある。

こうした背景のもと、オリックス・レンテックは、2012年6月に開始したタブレット端末の導入から運用までビジネスシーンでの活用をトータルに支援するサービス「TabRen(タブレン)」を通じ、タブレット端末や WiFi ルータのレンタルと Avaya Flare Experience Cloud Service を組み合わせたプランを今回用意することになった。

サービス販売にあたっては、オリックス・レンテックの法人部門とアバイアのリセラーパートナーを通して行っていく。また、今後、並行して Android 端末のサポートなど機能アップを行っていくとしている。

「今回のサービス開始に先立ち全国 6 都市をまわり市場開拓をおこない、どのようなアプリケーションが最適か検討してきた。BYODのニーズが高まってきている中、コストパフォーマンスの高いソリューションを提供する。」(日本アバイア)

「すでに数千から 1 万台単位の引き合いがきており、来年は相談が増えると期待している。将来的には海外にも展開することを視野に入れている。」(オリックス・レンテック)

関連記事:2012年4月30日号

コクヨエンジニアリング&テクノロジー、Web会議に伴う集中阻害対策向けの「デスク・サウンドマスキング」の発売

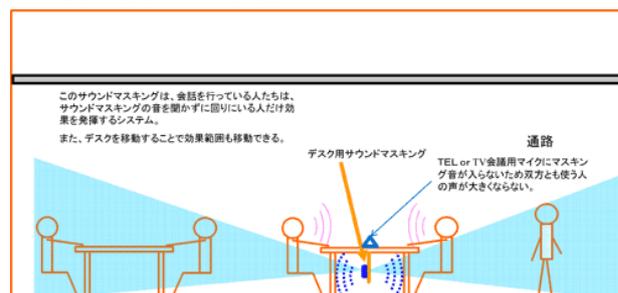
コクヨエンジニアリング&テクノロジー株式会社(東京都品川区)は、「サウンドマスキング」用スピーカをデスクに設置できる「デスク・サウンドマスキング」の受注を12月1日から開始と発表。(11月20日)

サウンドマスキングとは、45dB 程度の特殊な空調のようなマスキング音を発声させることにより、会話漏れや騒音が聞こえにくくなる原理(マスキング効果)。この原理を応用し

た製品となる。ちなみに、45dB の音圧レベルは、WHO(世界保健機構)が生涯浴びても聴力障害への影響はないと考えられる音圧レベルとされている。

同社では、2006年から、フロアの天井または天井裏に設置したスピーカからマスキング音を発するタイプを販売しているが、今回発売するデスク・サウンドマスキングは、スピーカをデスクの裏板に設置するタイプを発売する。

スピーカをフロアの天井または天井裏に設置するタイプでは、マスキング音をオフィス内に均一に放音し、会議室などの仕切られた空間で隣室の会話を聞き取りにくくするとともに、オープンスペースにおいても会話音の到達範囲を小さくすることができる。しかし一方で、会話している人にもマスキング効果が及んでしまうと、レイアウト変更に伴ってサウンドマスキングの効果範囲を変更したい場合に機器の移設工事が必要になることがある。



デスク・サウンドマスキングの効果(コクヨエンジニアリング&テクノロジー資料)



デスク・サウンドマスキング(コクヨエンジニアリング&テクノロジー資料)

今回発表されたデスク・サウンドマスキングは、スピーカをデスクの裏板に設置。スピーカはコントローラと接続しており、コントローラで発生させたマスキング音を、デスク下部から外側に向かって放音することで、周囲の会話を聞き取りにくくする。一方で、デスク上には天板に遮蔽されてマスキング音が届きにくいいためデスクを使用するワーカーは、マスキング音に包まれることなく、会話を行うことができる。加えて、設置や移

設も大がかりな施工を伴うことなしに行うことが可能。

Web 会議の利用が広がる中、Web 会議の声が周囲の集中を阻害する要因となることがある。そこでこのデスク・サウンドマスキングは、Web 会議にともなう周囲の集中阻害対策に役立つとしている。

価格は、メーカ希望小売価格(消費税込):472,500 円～。
機器(1chの専用コントローラ1台、スピーカ2台)に施工費のみ。デスクは除く。

販売目標は、3年間で1000セットとしている。

ビジネス動向-海外

Telefonica Digital 社、Web ベースコミュニケーション戦略の一環として TokBox 社の買収を発表

スペインの Telefonica Digital 社(通信事業者テレフォニカのデジタル部門)は、ビデオコミュニケーションプラットフォームを提供する米 TokBox 社の買収を発表した。(10月25日)

今回の買収は、Telefonica Digital 社の Web ベースコミュニケーション戦略の一環。TokBox 社の「OpenTok Video Platform(オープントック・ビデオ・プラットフォーム)を統合することで、Telefonica Digital 社のビジネスおよびコンシューマー向けのコミュニケーションサービスを強化する狙いがある。具体的には、顧客に応じたカスタマイズ可能なソリューションを提供したり、API を提供することで開発者のサービス開発を支援する。加えて、Telefonica 社が 2010 年 12 月 22 日に発表した「BlueVia」開発者向けプラットフォームにもビデオ API を統合する計画だ。

TokBox 社の OpenTok Video プラットフォームは、2010 年 11 月に発表されたもので、企業への導入のほか、ビデオチャット機能を iOS アプリケーションに実装したり、WebRTC ベースのビデオソリューションの開発においてパイオニア的な役割を果たしている。

買収後は、TokBox 社の CEO Ian Small 氏はそのまま留まり、Telefonica Digital 社のプロダクト開発&イノベーション担当ディレクターの Carlos Domingo 氏が、TokBox 社の取締

役ならびに社長に就任する。

なお、実際の買収手続きは、Telefonica Digital 社のシリコンバレーに拠点を置くベンチャー投資チームが行った。

G2J 社、オンラインショッピングの中国 Tabao 社と提携

フランスの G2J 社の関連会社 G2J China 社と、オンラインショッピングを運営する中国の Tabao 社が戦略的提携を行った。(10月24日)

これにより、「My Easy Connection」「My Easy Cast」「My Easy Room」などの G2J 社のクラウドビデオソリューションが Tabao 社のオンラインショッピングサイトで購入できるようになった。G2J 社にとっては、中国市場での存在を強化することができるかと期待している。

Verrex 社と UCi2i 社、テレビ会議マネージドサービスで提携

米のテレビ会議システムインテグレータ Verrex 社は、テレビ会議マネージドサービス UCi2i 社と提携した。(10月23日)

Verrex 社(1947年設立)は、遠隔会議システムおよびコラボレーションシステムの設計、インテグレーション、サービス、およびサポートを提供する企業。これまで UCi2i 社のマネージドサービスを自社活用してきた。

そこで今回、UCi2i 社と共同で Verrex 社は、デスクトップからテレプレゼンスまでのテレビ会議から会議のモニターやサポートまで包括的なサービスをセキュアなネットワークとクラウドでテレビ会議マネージドサービスを提供することにした。

UCi2i 社は、香港とロンドンに本部を持つテレビ会議マネージドサービスを提供する独立系(補足:通信事業者などの傘下企業ではないという意味)サービス提供事業者。2009年設立。ビデオ会議を音声通話と同等な簡単さを実現すること(making video the new voice)を目指している。

Tely Labs 社、150 万ドルの増資、SMB 向けテレビ会議ソリューションの提供へ乗り出す

米 Tely Labs 社は、事業戦略の拡大のため 150 万ドルの増資を行った。(10 月 23 日)

今回の増資にあたっては、Comcast Ventures 社や Rogers Venture Partners 社から出資を受けた。この資金を基に、導入しやすい価格帯ながらも機能が豊富なテレビ会議システムを中小企業向けに提供していく考え。

Tely Labs 社では、2012 年 1 月以来、コンシューマ向けのテレビ電話「Tely HD」を販売してきたが、今回のビジネス向けにおいては、その Tely HD を機能拡張する形で「tely HD Business Edition」を発売する。本体は、パソコンを不要としておりプラグアンドプレイに対応、NVIDIA Tera-2 Dual Core ARM A9 プロセッサに H.264 ビデオアクセラレーションを搭載している。映像解像度最大 720p HD、多地点(6 拠点まで)機能、デスクトップ・ドキュメント共有機能などに対応。共有機能では、マイクロソフト社のオフィス、アドビシステムズ社の PDF、ウェブページなどを共有できる。また、Skype 認証を受けており、Skype との通話も可能だ。音声通話マイクには 4 個のノイズキャンセリングを搭載。

価格は、499 ドルだが、初年度の多地点接続サブスクリプションを含む。2 年以降は年間 199 ドル。telyHD BE は、北米リセラーパートナー経由で販売されているが、海外については、いくつかの市場にて提供予定(CNAレポート・ジャパン: 日本市場については未確認)。既存の telyHD ユーザーはアップグレードで BE バージョンに乗り換えることが可能。

セミナー・展示会情報

< 国内 >

東京・大阪同時開催『実践！スマートデバイスで「いつでも、どこでも」ビデオ会議』セミナー ~ 出張先、在宅勤務、取引先での打合せ・・・活用シーンがどんどん広がる ~
日時: 1月17日(木) 14:30~17:15(受付開始14:00)

会場: パナソニック インフォメーションシステムズ東京オフィス
シスコシステムズ 大阪オフィス

主催: パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

共催: シスコシステムズ合同会社

詳細・申込: <https://event.is-c.panasonic.co.jp/public/seminar/view/281>

定期レポート 電子ブック版

CNA レポート・ジャパンでは、毎月2回業界ニュース(定期レポート)を1999年から発行しておりますが、この度、カタログスクウェアさんに、2003年から2011年までの定期レポートを1年毎に合冊していただきました。2012年は1号毎です。

また、今年8月4日には、これまでのPCからの閲覧に加えて、スマートフォンやタブレットからも閲覧できるようになりました。

CNA Report Japan アーカイブ 電子ブック版

2003年-2011年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

2012年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/2012/

定期レポート(PDFファイル)は年間23号発行されておりますが、電子ブックによって1年分を一度にダウンロードできこれまでのように1号毎にPDFをダウンロードする必要はありません。もちろん今までのPDFもアーカイブしています。

電子ブック版は、本のページをめくるようにとても読みやすくなりましたし、また1年単位ですが全文検索もしやすくなりました。定期レポートの読者の皆さんにとっても良いのではないかと思います。

ちなみにこの定期レポートは私にとっては、遠隔会議のリサーチの一環としてまとめているものでもありますし、また、私自身の活動を広げていくための機会への窓口にもなっています。

カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

*遠隔会議業界で長くお勤めされ、今年電子カタログ・ソリューションで起業された方が経営されている会社です。

*この電子ブック版についてご意見等ございましたらよろしくお願いたします。橋本宛 cnar@cnar.jp

編集後記

今年も定期レポートをお読みいただきまして誠にありがとうございました。

市場はどんどん動いています。クラウドが本格化している中、低コストのテレビ会議端末や、無料も含めた Web 会議サービス・電話会議サービス、さらにはコンシューマ向けのテレビ電話など多数の新しい市場プレーヤーが見られます。またそこに WebRTC という Web ブラウザーにテレビ電話・音声機能を組み込む技術をベースとしたベンチャー企業なども十数社(?)はアメリカを中心に参入しています。今後市場がどのように展開していくのか予想が難しい状況ですが、来年はどのように展開していくのか、ワッチしていきます。

掲載していないニュース記事がありますが、1月号でキャッチアップしていきます。

少し早いですが良いお年をお迎えください。来年もよろしくお願いたします。

橋本啓介